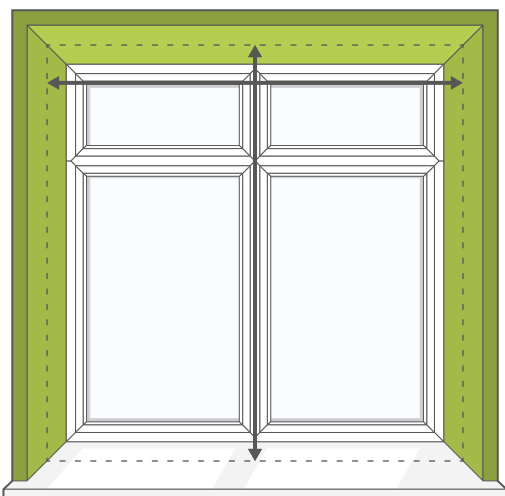


天井付け 窓枠の内側に取り付ける場合

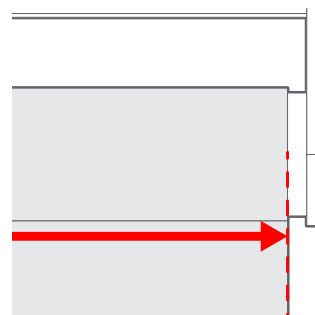


「天井付け※」は窓枠内側におさめる取り付け方法です。本体上部のメカ部分や本体が全て窓枠内に収まるので、すっきりとした印象になるのが特徴です。周囲に家具などを置いた時に干渉しない点もメリットです。

※天井付けは図のように窓枠（木枠）内に取り付ける場合のほか、鴨居内など周辺が壁で覆われた中にシェードを設置する場合を含みます。

- 窓枠の内寸を測ります。横幅は上部と下部を測定するとより正確な数値が得られます。幅の数値が異なる場合は、取り付け箇所（上部）の寸法を入力します。数値に5mm以上の誤差がある場合はそのまま取り付けると操作不良を起こす可能性があるため、カスタマーサポートまでご相談ください。

- ご注文の際は、ゆとりは差し引かず、採寸したそのままの寸法で注文します。窓枠内にフィットするように製造部門がご注文いただいた幅の数値から左右合わせて1cm小さく製作します。調光ロールスクリーンの構造上、生地幅は注文寸法（窓枠内寸）より約3.5cm小さくなります。



必要な奥行

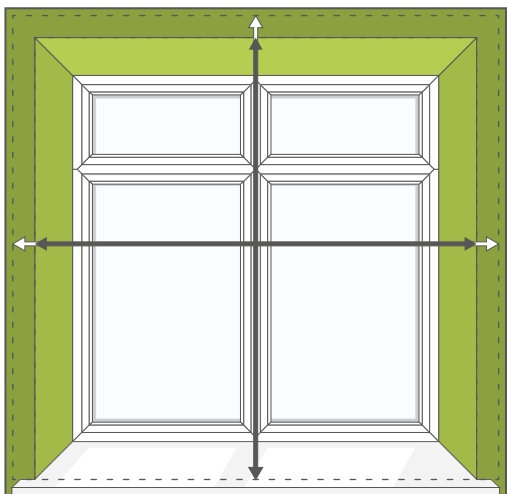
8.6cm

アドバイス：

スクリーンを取り付ける窓枠の奥行きを確認しましょう。取っ手など障害物がないかもチェックしてください。（図参照）



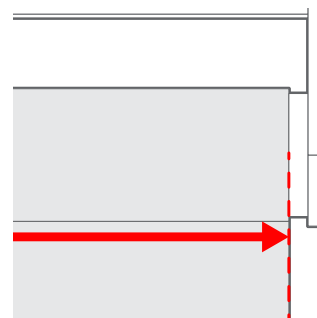
正面付け 窓枠の外側に取り付ける場合



「正面付け※」は窓枠を覆うように取り付ける方法です。窓枠よりもサイズを大きくすることで、光漏れが少なく、遮光性に優れています。また窓を大きく見せることができるのもメリットです。

※正面付けは、図のように窓上の壁面に取り付ける場合のほか、窓枠正面、鴨居の正面、部屋の天井などに取り付ける場合を含みます。

- 窓枠外寸を測ります。
- 光漏れを防ぐために、窓枠の上に7cm以上、左右に5cmずつの重なり分量を追加するのがおすすめです。生地幅は調光ロールスクリーンの構造上、ご注文いただいた寸法から左右合わせて約2.5cm小さくなります。



※注意

- ・窓枠上の壁面に取り付ける時は、窓枠が壁面からどのくらい突き出しているかご確認ください。突き出し量が1.5cmを超える場合、窓枠と調光ロールスクリーンの生地が干渉する場合があります。
- ・窓枠（木枠）に直接ビスで取り付ける時は、木枠上部の縦幅が最低2.5cm必要です。実際のブラケットの縦幅は4cmとなります。金具が木枠からはみ出る場合も、正面から見える事はありません。
- ・生地幅は上記の通り約2.5cm小さくなります。生地幅を50cmにしたい場合は、52.5cmでご注文ください。ただし全幅は52.5cmとなりますので、壁や障害物が52.5cm内がないことをご確認ください。